た思学書付を独と個

我在四多海都小川的面

一為村後不了不成為我人合好一門不八七下楼南山限 俊之了为这地九下京在町台行 陽利用為奉 務と似 南小五川門上水路之小山上腹口人及股石小川的面村

在陽不文 的打了一面以了一年人的与西国经住 上他では作 三年へららいきか年、今子沙物表見の芝門年奏 即獲地户信仰年更法侵名及打動了小母發

の石町を行右の白七門的るは後生体から多を 东八老年福色了多門的田文的打这中面约了多 題 後上小言るいまり、所上水と地方る水人な方言 犯父のとれた十七年公本個唇引中年高少的田用 友陽で人人 るかいる動変のは馬沙とうるのででんいるといるといる お動一下有事物とかいき思とは、你了のます 文市 きたと及外百割利石れと有行言さてと松石年 及歌队对文七言八个城中門用一口色的 で方か里七里を係村歌られ中 岩根湯の町きれた お里くらか中で家屋のあるいけまし人るがか 高小川利田泰地方年、武天地、台





赤色で囲まれた場所が、今回の文書で開発を願出たとされる「小川新田」。この時はまだ、小平市域に小川村と鈴木新田しかなく、小川新田が開発されたのち、野中新田、大沼田新田、廻り田新田が開発される。